

## 子宮頸がん検診無料クーポン券による受診状況と成績について

— 2009 ～ 2013 年度，5 年間のまとめ —

○ 荒木由佳理 1 ) 佐藤奈美 1 ) 佐藤美賀子 1 ) 神尾淳子 1 ) 菅野薫 1 ) 森村豊 2 ) 藤森敬也 3 )

1 ) 公益財団法人福島県保健衛生協会

2 ) 一般財団法人慈山会医会研究所附属坪井病院

3 ) 公立大学法人福島県立医科大学医学部産科婦人科学講座

### 【 目的 】

福島県における子宮頸がん検診において無料クーポン券（以下クーポン券）が配布され 5 年が経過した。今回、検診実施状況からクーポン券導入の効果を検証した。

### 【 対象・方法 】

2009 ～ 2013 年度に実施した子宮頸がん検診受

診者延べ 362,654 名のうちクーポン券対象者  
( 21 歳 , 26 歳 , 31 歳 , 36 歳 , 41 歳 ) 延べ 62,941  
名について、クーポン券利用者数、検査成績  
等を検討した。また、2011 ~ 2013 年度の都市  
部 ( 12 自治体 ) のクーポン券利用率について  
調査した。

統計学的検討は、 $\chi^2$  乗検定を用い  $P <$   
0.05 をもって有意差ありとした。

#### 【 結果 】

クーポン券利用者数は、2009 年度より順次  
12,913 名 , 13,753 名 , 12,312 名 , 12,301 名 , 10,048 名  
で、クーポン券導入 2 年目の 2010 年度が最も  
多かった。震災後の 2011 年度以降は減少し、  
5 年目の 2013 年度が最も少なかった。

各年齢におけるクーポン券利用者割合は、い  
ずれの年度においても 36 歳が最も高く ( 約  
30 % )、21 歳が最も低かった ( 約 8 % )。

5 年間合計したクーポン券利用者 61,327 名にお  
ける要精検率は 1.82 % で、クーポン券非対象

者 301,327 名、0.70 % を大きく上回った (  $P < 0.05$  )。CIN2 以上の病変の発見率でもクーポン券利用者が 0.62 % を占めており、クーポン券非対象者が 0.21 % であったのに比して高率に発見された (  $P < 0.05$  )。

都市部のクーポン券利用率は、2011 年度 平均 24.6 % ( 最小 15.0 ~ 最大 35.5 % )、2012 年度 24.8 % ( 14.1 ~ 34.4 % )、2013 年度 19.0 % ( 8.3 ~ 28.0 % ) であった。一部の自治体では、コール・リコールなどの受診勧奨を行ったが、全ての都市で最終年度である 2013 年度の利用率は減少していた。

### 【まとめ】

無料クーポン券は 20 歳代に受診の機会を与え、若齢者の CIN2 以上の発見に一定の効果がみられた。しかし、震災後の受診者数は減少の傾向にあった。これらのことから、無料というだけでは受診の契機にはならず、若齢者へ検診の重要性を啓発するためには、さらなる工

夫が必要である。